

チーム力でつかんだ 金メダル

市長 米本 弥一郎



この夏、日本中が沸いたパリオリンピック。その中でも印象深かった競技が体操男子団体です。決勝で奇跡の大逆転劇を演じ、2大会ぶりの金メダル獲得で「体操ニッポン」の強さを世界に示してくれました。

今回は、エースの橋本大輝選手のけがによる不調もあり、予選ではライバルの中国に大差をつけられての2位通過でした。決して良い状態とはいえなかったチームに、どのような変化があったのでしょうか。

選手たちはインタビューの中で、決勝前日のミーティングが大きかったと答えています。主将の萱和磨選手が、金メダルを逃した東京オリンピックの悔しさを思い出し「2番は嫌だ」と訴えたと、ほかの選手たちも思いを口にしました。このミーティングで、金メダルへの強い気持ちを共有し、本当の意味でチームが

一つになったそうです。

決勝では、萱選手が「絶対、諦めんな」と何度も繰り返し、派手なガッツポーズで鼓舞しました。橋本選手は最終種目の鉄棒に臨む前、チーム全員に頼んで、背中を叩いてもらっています。仲間から力を分けてもらうと、気持ちのこもった見事な演技で金メダルへとつなげました。お互いの本音をぶつけ合い、全員が気持ちを一つにする。そして諦めずに自分の役割を果たし、鼓舞し合い、仲間につないでいく。これこそが「チーム力」なのだと感じたところです。

体操以外の競技でも、選手や監督、スタッフがチーム一丸となり試合に挑む姿が多く見られました。私たちも、より良いまちの実現に向けて「チーム旭」の力を高めていこうと改めて思ったオリンピックでした。